

各戦略協議会・WGにおけるICTへの期待について（依頼）

平成26年12月12日

ICT-WG座長

相田 仁

11月27日に開催された第4回重要課題専門調査会では、各戦略協議会・WGからのICTに対する期待の強さをあらためて認識いたしました（別紙1参照）。その後、12月9日に開催した第6回ICT-WGにおいても、審議事項の一つである「今後さらに取り組むべき課題の検証」において、ICTが政策課題それぞれを解決するためにどのようなシステムを実現するのか、これまでのような要素技術のみの検討ではなく、真に実現すべきシステム全体の検討が必要との議論がなされました。

ICT-WGでは、こういった議論をもとに政策課題解決のために必要となるシステムの検討を、「今すぐ解決しなければならない課題」、「将来に備えて取り組むべき課題」の2つについて検討を進めたいと考えております（別紙2参照）。

そこで、ICTの活用によって真に実現すべきものが何かを明確にするため、各戦略協議会・WGの視点で「どういう課題をどのようなシステムで解決していくか」について、以下の通りご検討・ご提示いただけますようお願いいたします。

ご提示いただいた項目は、1月19日に開催予定の第7回ICT-WGにおいて紹介させていただき、ICT-WG構成員および、関係府省における検討に反映させていただきたいと考えております。

なお、ICT-WGでの検討結果は、4月に予定している重要課題専門調査会において報告し、各戦略協議会・WGにフィードバックさせていただきたいと考えております。

- 検討項目 担当の政策課題を解決するため、どのようなシステム化に取り組みたいと考えているか（ねらい）
- 期日 平成27年1月13日（月）
- 提出先 ICT-WG事務局  
（内閣府 科学技術・イノベーション担当 情報通信G）  
兵藤 mamoru.hyodo@cao.go.jp  
谷上 hiroyoshi.tanigami@cao.go.jp  
香山 kentaro.kayama@cao.go.jp

以上

#### 第 4 回重要課題専門調査会における専門委員からの主な意見

第 4 回重要課題専門調査会（平成 26 年 11 月 27 日）では、平成 26 年度のこれまでの取組や平成 26 年度専門調査会の審議方法について、専門委員から以下のような意見があった。

- 個々のテーマは光っているが、実装までのシナリオへの取り組みがまだ足りない
- 個々のコンポーネントは良いが、インテグレート力が弱い。弱点をどう克服するか。たとえば、PDのように、強いリーダーシップのもとでプロジェクトをまとめられる人材を育てる環境をつくることも必要ではないか。
- システムとして取り組むための ICT が重要。全体を ICT で括るような議論ができていないのではないかと。大きくまとめて議論ができるようにすべき。
- 政策課題解決のために必要な提案が各省から出揃っていない。また、連携として提案されても、本質的な相乗効果が上がっていない。
- 府省連携を必須としたため、単独施策になりやすい基礎研究の部分が提案しづらかったのではないかと。
- 科学技術のアウトプットが地域に価値を生むような取り組みを考えることが必要
- ヒアリングは大きなテーマに絞るなどして効率化を図る必要があるのではないかと。
- 各省の説明者が自省の取り組みの全体を把握していないことが多い。それでは効果的な議論ができない。
- どの市場をターゲットにするのかを見極めた上で、何をやめるべきかの判断も重要